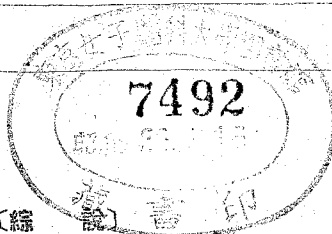


# 女子醫學研究

第 14 卷

昭和 19 年 2 月 25 日 發行

第 1 號



## 目 次

〔綜 論〕		
皮膚結核症に就て	田 村 一	1
〔原 著〕		
既往十二年間の東京女子醫專無料診療所寄生蟲検査部成績の統計學的觀察	中 村 絹 子 土 屋 マ サ 安 場 登 喜	7
女子醫學專門學校生徒の罹病狀態に關する研究 (第 2 回報告)		
——寄宿通學別考察——	吉 立 岡 野 博 君 人 子	23
女子醫學專門學校生徒の月經狀態に關する生物統計學的研究 (第一報 月經周期の統計學的觀察)	大 村 久 榮	43
〔臨床實驗〕		
乳嘴突起炎經過中に證明せる Gärtner 氏菌性敗血症の一治驗例 (第一篇 臨床的事項, 第二篇 細菌學的事項)	窪 辻 中 敦 西 清 子 嘉 子	63
〔抄 録〕		83
〔雜 報〕		84

100

TK3  
b

日本女子醫學研究會

東京都牛込區河田町 東京女子醫學專門學校内

第1例は3回鼓膜切開施行。耳漏は漿液性にて午前中の方が他の時より多量排出せりと。エフェドリン投與が奏効し、約1月にて全治。第2例は40日間に左右共に5~6回鼓膜切開施行。耳漏は漿液膿性なり。エフェドリン、莖若エキス使用1ヶ月にて治癒せり。著者の治験例及び文献例を綜括するに大體各年齢に見るも5歳以下の小児はAllergie性疾患に罹患し易し。性別に大差なし。原因は自律神経系統の緊張障碍と密接なる關係あり。自覺症は耳痛、耳鳴、難聴、耳内閉塞感、頭痛にして、之等の自覺症は突如として起りしと。又アレルギー採取後、喘息、血管運動神經性鼻炎續發すと。鼓膜穿孔は耳痛起りし後間もなく、又は早期に穿孔形成なき例あり、鼓膜所見は炎症性の發赤少く

帶青白色、灰白色、浮腫様蒼白なり。耳漏は漿液性、漿液粘液性なり。血液所見は白血球數は正常或は減少を示し、Eosinophilieを呈す。Jonesは鼻咽頭粘膜の變化、殊に歐氏管入口部及び鼻中隔後壁粘膜の浮腫様蒼白を呈するを本症の特異所見とすと云ふ。診斷はアレルギー性疾患罹患有無、全身所見、血液所見等を参考にすべし。治療、局所的には一般中耳炎に同じ。アレルギー判明し居る者は之の除去、判明せざる者にて経過遷延せる場合にはアドレナリン、エフェドリン等の試用肝要なり。その他變調療法 Calcium, Vitamin A. B. C 殊に C 劑の使用は有効なり。

(財前抄)

## 雜 報

### 日本女子醫學研究會第1回總會

昭和18年10月 } 23日(土)(13-17時)  
                          } 24日(日)(9-13時)

東京女子醫學專門學校臨床講堂において開催。

### 昭和十七年度會計報告

收 入 の 部	
會 費	4,682.00 圓
別 刷 代	491.14 圓
廣 告 料	711.80 圓
雜 收 入	560.95 圓
計	6,445.89 圓

### 支 出 の 部

前年度繰越	341,34 圓
印 刷 費	4,243,98 圓
通 信 費	734,44 圓
總會開催費	498,53 圓
諸 雜 費	699,55 圓
計	6,517,84 圓
差 引	-71,95 圓

編 集 後 記

◇日本女子醫學研究會第一回總會は、豫期以上の好成績を以て無事終了した。本年の特別講演は二教授とも「日本女子醫學研究會」總會にふさはしいものであつた。今後は全演題を通じて本會の特色を發揮するやうにしたいものと思ふ。幸に御協力を乞ふ。

◇最近は印刷能力低下のため印刷がきはめて長期にわたるので執筆者はなるべく早く原稿を御送附願ひたい。

◇決戦下ますます本誌の使命は重要となりつつあるから、會員諸氏にはいよいよ醫學報國に邁進されたい。(博人)

<p style="text-align: center;">發行所</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;"><b>日本女子醫學研究會</b></p> <p style="text-align: center;">(日本出版會・會員番號三三三三) 電牛込(34)七・二〇・三四九二</p> <p style="text-align: center;">院內圖書室</p> <p style="text-align: center;">東京都牛込區河田町九番地</p> <p style="text-align: center;">編輯兼 發行者 吉岡博人</p> <p style="text-align: center;">電牛込(34)三五五番</p> <p style="text-align: center;">印刷者 谷本正</p> <p style="text-align: center;">印刷所 愛宕印刷株式會社 (東京一三五)電芝(43)三六・四三〇番</p> <p style="text-align: center;">東京都神田區淡路町二丁目九番地</p> <p style="text-align: center;">配給元 日本出版配給株式會社</p>	<p style="text-align: center;">昭和十九年二月二十日印 昭和十九年二月廿五日發行</p> <p style="text-align: center;">東京都牛込區河田町拾番地 東京女子醫學專門學校病院内</p> <p style="text-align: center;">廣告料</p> <p style="text-align: center;">●普通面金貳拾圓 ●對向面金參拾圓 ●表紙第二・三 ●四拾圓 ●表紙四面金五拾圓 ●挿廣告菊判二頁迄貳拾五圓 ●東京都世田ヶ谷區玉川園調布二丁目七・二八番地ノ七 ●廣告取扱者 大矢雅美 ●電話田園調布三三七四番</p>	<p style="text-align: center;">雜 則</p> <p style="text-align: center;">●會費拂込ハ、「東京四三四二」、東京女子醫學專門學校内 ●日本女子醫學研究會宛ノコト</p> <p style="text-align: center;">●會費ハ毎年一月中ニ拂込マル、コト。</p> <p style="text-align: center;">(前金) ●會費 壹ケ年 金六圓 ●賣部 二圓</p>
--	---	---

## 寄稿細則

- 1) 寄稿は會員に限り之を受ける。
- 2) 既に他の雑誌に發表せられたる論文は之を受理せず。
- 3) 原稿用紙は本學會所定(400字詰20行)のものを用ひられたい。用紙は本學會事務所で實費で分賣する。地方からの申込にも應ずる。
- 4) 寄稿注意は次の如くである。
  - a) 冒頭は次の順序に願ひたい。——標題, 所屬, 主任或は指導者, 著者名, 本文, なほ著者名には, 片假名で振假名をつけて頂きたい。
  - b) 本文は, 誤のない日本語で, わかりやすい文章で綴られたい。あまりむづかしい漢語は使はないようにしたい。文章には句讀をよく氣をつけて打つて, 點も丸も一畫にはめること。行をかへるのも合理的に, 一つの文意の終つた所でする様にした。
  - c) 假名は平假名を用ふること。
  - d) 外國人名, 地名は, なるべく歐文のまま記載せられたい。然し地名その他のうち既に我が國でも通俗化してゐるようなものは, 片假名で書くこと。
  - e) 活字の大きさは編輯者に一任せられたい。
  - f) 引用文献には, 邦文, 歐文の順序とし, 著者名, (標題名), 雑誌名, 卷, 號, 頁(出来るならば, 論文の初と終の頁) 發行年月をこの順序に記載せられたい。文献は, 本文の後にまとめられてもよいし, 脚註を利用されてもよい。
  - g) 本文中に挿入する表や圖版は原稿中の適當の部分に貼りつけて貰ひたい。費用がかさむから, 必要な最小限度にせられたい。
  - h) 本文及び文献の歐字は出来る限り明瞭にし, 文献については成るべくタイプライターにて記すこと。
  - i) 藥名其他は片假名とし, 「」或は傍線を附さないこと。
- 5) 論文寄稿者は寄稿の際必ず別刷所要部數を原稿第一頁の餘白に朱書せられたい。別刷は20部迄無料贈呈する。それ以上を要せられる場合は, 超過部數に對する實費を申受ける。但し所要部數を記入せざる時は別刷を調製しない。
- 6) 論文1篇15頁を超過せる際は實費を申受ける。色彩圖その他多額の費用を要する際は之を申受ける。
- 7) 掲載は受附順による, 但急を要するものは掲載料全額を申受く。
- 8)メートル法度量衡の單位の書き方は次の形式に従はれたい。これらの符號のあとには點をつけない。

1 兪.... 1 cc	1 瓦.... 1 g	1 疋.... 1 kg	1 疋.... 1 mg
1 米.... 1 m	1 糎.... 1 cm	1 耗.... 1 mm	1 ミクロン.... 1 $\mu$
1 ミリミクロン.... 1 $m\mu$	攝氏37度2分.... 37.2°C	華氏60度.... 60°F	
- 9) 掲載の採否は編集會議による。
- 10) 寄稿の宛名は左の如く認められたし。

東京都牛込區河田町

東京女子醫學專門學校病理學教室

日本女子醫學研究會幹事 佐藤 や い 宛